



1. 『湘南ふじさわ下水道ビジョン』での方針・目標

下水処理場から発生する処理水や汚泥は、年間を通じて比較的安定して供給されているため、エネルギーとしての利用価値は高く、その他にも、焼却炉の廃熱や処理水と河川水・海水との温度差など、下水道が有する資源・エネルギーとしてのポテンシャルは極めて大きいと考えられます。現在は汚泥の資源化に加え、処理水を場内の施設運転用水などとして利用していますが、さらなる下水道資源・エネルギーの活用について検討していく必要があります。

方針・目標
【長期目標】

循環型社会の構築に向けての
資源・エネルギーの活用を進めます。

主な施策

- 1) バイオマス・熱利用の研究
- 2) 新エネルギー活用による自給推進

2. 第1期アクションプログラムの評価

下水道におけるバイオマスエネルギー技術の調査・研究を平成20年度から2ヵ年に渡り実施した結果、現在の汚泥処理システムを大幅に追加変更する必要があることが分かり、導入を見送った経緯があります。このため、第1期アクションプログラム期間においては、バイオマス・熱利用技術の新たな情報収集・情報共有化に努めてきました。

一方、新エネルギーについては、辻堂浄化センターの施設空間を利用した太陽光発電の導入検討を行いました。発電した際のメリットや機器の設置場所・費用等を総合的に検討した結果、現時点での導入は見送り、今後の技術革新や社会情勢の変化を見ながら情報収集等を継続していくこととしています。

	第1期アクションプログラムでの実施状況	評価指標	
		活動指標	効果指標
1) バイオマス・熱利用の研究	バイオマス・熱利用技術の導入には大幅なシステム変更等の課題があるが、新技術の導入なども含め、新たな技術の情報収集・情報共有化に努めている 😊	バイオマス利活用 目標：－ 実績：最新の情報収集・情報共有 😊	—
2) 新エネルギー活用による自給推進	太陽光発電の導入検討の結果、経済性・施工性の課題などから導入を見送っているが、新たな技術の情報収集・情報共有化に努めている 😊	新エネルギーの導入 目標：導入検討 実績：太陽光発電の導入検討 😊	—
施策評価	😊 太陽光発電の導入検討やバイオマス・熱利用技術についての研究を実施している		

用語：太陽光発電、バイオマス



3. 第2期アクションプログラムの実施方針

下水道から発生する汚泥、下水、排熱等、また、太陽光発電、小水力発電等の資源・エネルギーとしての利活用について、情報収集・情報共有化に努めるとともに、新技術の動向に注視しながら、技術の研究・導入の可能性検討を行っていきます。

【主な事業内容のポイント】
■下水道の資源・エネルギーとしての利活用技術について、情報収集・情報共有化に努める。(①)

表1 「視点2-3. 資源・エネルギー循環の形成」の主な事業内容

主な施策項目	具体的な事業	種別	事業実施時期					
			29	30	31	32	33	34
1) バイオマス・熱利用の研究 2) 新エネルギー活用による自給推進	①下水道資源・エネルギー利活用技術の情報収集・情報共有化	継続	→					

4. 第2期アクションプログラムの目標（活動指標）

主な施策・事業の実施状況及び実施効果については、以下の活動指標を基に、3年ごとに評価を行います。

表2 「視点2-3. 資源・エネルギー循環の形成」の目標（活動指標）

施策項目	指標		第2期AP目標		備考 (実績)
			中間評価 (H31年度)	第2期AP (H34年度)	
バイオマス・熱利用の研究	活動指標	バイオマス利活用	情報収集・情報共有化 (H29～31)	情報収集・情報共有化 (H32～34)	H23～28末 情報収集・情報共有化
新エネルギー活用による自給推進	活動指標	新エネルギーの導入	情報収集・情報共有化 (H29～31)	情報収集・情報共有化 (H32～34)	H23～28末 太陽光発電の導入検討